



平成30年10月31日

北名古屋市議会議長  
長瀬 悟 康 様

日本共産党  
渡邊 麻衣子



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	渡邊 麻衣子	
日程	平成30年 10月 11日 から 10月 12日 まで 2日間	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
10月11日	新潟県長岡市	第80回全国都市問題会議
10月12日	新潟県長岡市	第80回全国都市問題会議

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	通信費	参加費
61580 円	38580 円	13000 円	円	円	10000 円

## 調査の成果

### 『第80回全国都市問題会議に参加して』

期間：平成30年10月11日～12日 場所：新潟県長岡市 アオーレ長岡

#### ● 研修内容

【議題】市民協働による公共のまちづくり

#### 第1日 平成30年10月11日

〈基調講演〉東京大学史料編纂所教授 本郷和人「地方分権へのまなざし」

〈主報告〉新潟県長岡市長 磯田達伸「長岡市の市民協働」

〈一般報告〉◎三重県津市長 前葉泰幸

「市民との対話と連携ですすめる津市の公共施設マネジメント」

◎ 建築家・東京大学教授 隈 研吾「場所の時代」

◎ 筑波大学客員教授 森 民夫

◎ アートディレクター 森本千絵

#### 第2日 平成30年10月12日

〈パネルディスカッション〉

パネリスト

◎明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授 牛山久仁彦

「市民協働による公共の拠点づくり」

◎東京理科大学理工学部・建築学科教授 伊藤香織

「シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える『拠点』」

◎NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事会 奥山千鶴子

「子育て支援から見た公共の拠点づくり」

◎長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀智信

「長岡の市民主体のまちづくり」

◎埼玉県和光市長 松本武洋

「地域包括ケアを支える新たな拠点づくり～NPOとの連携～」

◎高知県須崎市長 楠瀬耕作

「人・モノ・金の好循環を目指して」

#### ● 議題「市民協働による公共のまちづくり」について

近年、市民活動が活発化しています。市民活動は市民の自由な自己表現であり、自治体は地域社会の課題解決のひとつとして市民協働に結びつけようと期待を寄せています。その点から、市民協働を推進するためには市民活動の発展が必要であり、多様な担い手

の掘り起こしも重要だと自治体運営を存続する側面から言われています。そのためには、これまでのように単一的な利用目的を設定した公共施設のほかに、誰もが立ち入りやすく、自由に利用しやすい空間のある公共施設も必要だとし、今回の会議の開催場所である、複合施設の「アオーレ長岡」が紹介されました。「アオーレ長岡」は、利用目的を固定化せず自由な発想で利用できる場となっており、市民の活動拠点・交流拠点として、子どもの遊び場として、にぎわいを見せています。

また、複合型でなくとも、図書館や子育て支援施設、学校施設も、地域の公共の拠点として捉え、十分に活用し、支える仕組みも紹介しています。

今回の会議では、先に紹介した市民協働による公共の拠点づくりや公共の拠点となる場所の活用、市民協働による地域づくりを各地ですすめられるような市民協働に携わる人材の育成など、市民や市民団体の活動とこれからの対する行政の連携・支援のあり方、さらには今後の地域社会のあり方を主な議題として、各地・各分野からの報告と議論が行われました。

## ● 所感

北名古屋市においても、市民が自由に行う文化活動など、市民活動は活発です。また、社会活動であるボランティアも各種団体が活躍をされています。地方財政が、国からの財源縮小などで厳しくなっている今、市民協働による公共サービスの提供が課題解決のひとつとされ、実際に北名古屋市でも、行政と連携したボランティア団体・自治会による協働が行われています。

市民が自由に自主性をもって行う市民活動を尊重することをふまえて、市民参画がどのようにまちづくりへの発展につながるか、市民参画がしやすいまちづくりなどを学ぼうと、今回の会議に参加しました。

議題について記述したように、市民が参画しやすいことを理念とした「アオーレ長岡」は建築構造が特徴的で、ハード・ソフトの両面からこの会議のシンボルといえるでしょう。「アオーレ長岡」の設計をした建築家の隈研吾氏は、人が集うリビングルームのような昔の暮らしの中心にある土間をイメージしたスペースを配し、林業のまちとして元にあった厚生会館の資材を再利用したそうです。そうしたことで市民の心の中のなつかしさ・親しみやすさを呼び起こし、交流に一体感をもたせ、実際に行きたくなる場所、集まりやすい場所となり、市民活動の拠点へと結びついたのではないかと考えます。

公共のまちづくりに市民の多面的な交流を取り込む視点は欠かせません。地域での小規模なコミュニティ施設においては地域生活の細かな視点を大切に、中心地域での公共施設においては多様な目的をもった視点を大切にするなど、ハード面は立地の特性を活かすことをデザイン設計を通じてその重要性をあらためて感じた報告でした。

明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授の牛山久仁彦氏も、「建築（ハード面）、

事柄（ソフト面）、市民（利用者）が揃って拠点がつくられる」と報告をされました。市民活動が活発化する背景には、公共施設が活動交流の場として機能するよう、行政が発信側と受け手側の声をキャッチし、つなぐ仕掛けづくりが今後の課題だと話されたことに共感しました。北名古屋市の文化勤労会館で行われている「ママライフエキスポ」は、まさにその仕掛け作りが機能しており、企業を考える女性の発信の場として、暮らしのアイテムを見つける場として、両者がマッチし、相乗効果を生むイベントとなっています。

市民協働は行政サービスを提供するだけでなく、行政が市民の声を聞いて情報を発信し、市民が課題やテーマを見つけて、主体性を持って取り組むことこそが大切だと考えます。「その主体性・自主性を持った活動が、やれば変わると手応えを得て、まちづくり参画へと発展する」との同氏の言葉は、市民をまちづくりの一員として、また、見知を持ったまちの財産として市民が尊重される視点を持ち合わせていると感じました。

地域から生まれる市民協働についての報告も参考になりました。地域には長年住んでも気づかないことや、異なる世代での情報共有が分離されやすいことが多くあります。地域の歴史・将来像の多様な展示、現場見学ツアーの企画などで、当事者意識が芽生え、アイデンティティから地域振興に積極的になった、東京理科大学理工学部・建築学科教授の伊藤香織氏による報告の「シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える『拠点』」での実践例や、子育て中の親たちが地域に子育てをする場所がないと「子育てひろば」を立ち上げて、地域子育て支援個展事業の創設につながったという、NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事会の奥山千鶴子氏による報告「子育て支援から見た公共の拠点づくり」の事例など、役割を持って市民が取り組んだことが市民活動を生んでいます。

北名古屋市においては、徳重名古屋駅周辺の鉄道立体・区画整理の構想を行政から市民へと情報発信し、まちの将来像を市民が主体性を持って考えるきっかけになっていた「まちづくりワークショップ」が、今後実践へと発展する可能性を持っていると考えます。

この会議を通じて、今後の市民協働のありかたは、参加しやすい仕掛け作り、ニーズに合った仕組み作りが大切だと学びました。また、主体性を持って市民が取り組むことで、継続・発展へとつながっていくことも知ることができました。そのためには、横浜市の「市民活動と協働に関する基本方針（横浜コード）」策定のような、行政と市民がパートナーとして尊重しあう「協働の原則」を共有することや、お互いの強みを活かせる市民協働のかたちを模索することも大切ではないかと考えます。

北名古屋市においては、障害者や高齢者、家庭環境で困難を抱えている方に寄り添うボランティア団体の活動をより知っていき、市民レベルでの交流が発展するよう模索していきたいと考えます。また、子ども食堂や居場所づくりに取り組む NPO についても、子どもの居場所づくり支援として行政が連携・支援していく必要があると考えることから、市内企業のフードバンク活用や、児童館での地域食堂など、具体策を見つけていき

たいと思います。同時に、プレーパークについても他自治体の例を参考にしながら、市民がプレーリーダーとなれる仕組み作り、地域の公園で身近にプレーパークが展開できる市民協働のありかたについて、引き続き研究していきたいと思っています。